

第9回 全日本少年春季軟式野球大会沖縄県予選 第3回島田叡杯争奪沖縄県中学校軟式野球大会要項

1. 主催 沖縄県野球連盟
2. 主管 沖縄県野球連盟
3. 後援 南城市教育委員会、南風原町教育委員会、八重瀬町教育委員会、国頭村教育委員会
4. 期日 平成29年10月8日(日)～9日(月) 開会式：無し
5. 会場 8日:1・2回戦 9:00開始(新開球場・黄金森野球場・東風平球場・かいぎんスタジアム国頭)
9日:準決・決勝 9:00開始(新開球場)

6. 参加資格 (1) 沖縄県内の中学校に在籍する1・2年生の生徒で編成されたチームで各地区の代表となったチームとする。なお、1校1チームとする。
(2) 硬式ボールを使用球としている団体に所属しているチームとその構成員の出場は認めない。
(3) 1チームは選手20名、監督1名、コーチ2名、記録員1名の計24名以内とする。
(4) 選手の引率、監督は出場校の校長・教職員とする。教員以外のコーチについては学校長が認めた者で、地区・県に登録された者とする。但しベンチ入りについては1名のみとする。
(5) 参加資格の特例を認める。「開催基準8(6)複数合同チーム」
(6) 県・地区中体連の規定及び各学校の規則に沿った中学生らしい身なり・容姿で参加する。
7. 出場チーム 県内7地区代表16チーム

地区	国頭	中頭	那覇	久米島	島尻	宮古	八重山	計
割当数	3	5	3	1	2	1	1	16

8. 競技規則 (1) 2017年公認野球規則および本大会競技規則・特別規則に則って行う。
(2) 競技方法はトーナメント方式とする。
(3) 試合は7回戦とし、得点差によるコールドゲームは3回以降10点差、5回以降7点差とする。また、日没、降雨のコールドゲームについては全試合5回以降成立とする。日没・降雨などで試合が成立しない場合は、特別継続試合を適用する。(サスペンデッドゲーム)
(4) 7回を完了して同点の場合は、タイブレーク方式とする。10回を完了しても決着がつかないときは、抽選で勝敗を決定する。ただし、決勝戦の場合は、投手の投球制限を遵守の上、勝敗が決定するまでタイブレーク方式を続行する。
※天候の都合で日程変更がある場合は、本部で協議の上、特別ルールを設定する。
(5) 背番号は1～20番を使用し、原則としてポジション順とする。
(6) 投手の投球制限については、肘・肩の障害防止を考慮し、1日7イニングまでとする。ただし、タイブレーク方式の直前のイニングを投げきった投手に限り、1日最大9イニングまで投げることができる。タイブレークとなった場合に投げることができる投手は、タイブレーク方式の直前を投げきった投手か、新たな投手(その日1球も投げていない選手)に限り、1日2イニングまで投げることができる。投球イニングに端数が生じたときの取扱いについては、3分の1回(アウト1つ)未満の場合であっても、1イニング投球したものとして数える。
(別紙「投球制限に関する確認事項」参照)

9. 使用球 全日本軟式野球連盟公認内外ボールB球とする。
10. 組み合わせ 平成29年9月22日(金) 沖縄市陸上競技場「会議室」において本部抽選により決定し、後日、沖縄県中学校野球専門部 HP (<http://www.geocities.jp/okiffbb2007/>)にて発表する。
11. 表彰 (1) 優勝校には優勝旗、島田叡杯(持ち回り)優勝盾、賞状を授与する。
(2) 準優勝校には準優勝盾、賞状を授与する。
(3) 3位表彰も行う。
12. 参加申し込み (1) 出場資格を得たチームは、沖縄県中学校野球専門部 HP (<http://www.geocities.jp/okiffbb2007/>)より所定の大会申込用紙に必要事項を記入し捺印を受け、大会参加料1万円を添えて9月22日(金)までに首里中学校へ直接持参するか、郵送で申し込む。
なお、大会冊子用データを下記アドレスに9月21日(木)までにメール送信すること。
(okiffbb2007@yahoo.co.jp)
(2) 選手変更届は、沖縄県中学校野球専門部 HP よりダウンロードし、校印を押印して、原本1部・コピー4部を監督会で提出する。
【申込先】 〒903-0806 沖縄県那覇市首里汀良町2-55
那覇市立首里中学校 TEL: 098-917-3402
FAX: 098-917-3422
沖縄県中学校体育連盟野球専門部長 照屋茂伸 宛
13. 旅費宿泊費 本大会における旅費・宿泊費はすべて参加チームの負担とする。
14. その他 (1) チームの責任は、引率者において、一切負うものとする。
(2) 大会出場中の選手の傷害は、大会本部において応急処置を行い、後は各学校で処理する。
(3) 大会参加の際、健康保険証のコピーを持参すること。
(4) 優勝チームには第9回全日本少年春季軟式野球大会九州予選大会(大分県開催)への出場資格を与える。

第9回 全日本少年春季軟式野球大会沖縄県予選 特別規則

1. 試合時間 (1) 試合は1時間30分と計算し、その60分前までには集合する。
(2) 連続試合の場合は間隔を30分とする。
2. オーダー交換 (1) オーダー用紙は大会本部の用紙を使用する。(5部提出)
(2) 攻守決定は、前の試合の4イニング終了時(第1試合は試合開始45分前)に監督立ち会いの上、主将が行う。但し、連続試合で先発投手が主将の場合は、登録メンバーから代理を認める。
3. ダッグアウト (1) 抽選番号の若い方が1塁側とする。但し、同一チームが連続して試合を行う場合は移動しない。登録された監督、コーチ、選手、記録員以外のベンチ入りは禁止する。
(2) ダッグアウト外からの選手への指示、アドバイスは禁止。
(3) ダッグアウト内でのメガホン使用は監督、コーチのみとする。(ベンチ内1個とする。)
4. シートノック (1) シートノックは、1回戦と準決勝のみ後攻より行う。時間は5分間とする。但し、天候の理由からシートノックを行わない場合もある。
(2) シートノック時の補助員はヘルメットを着用すること。なお、ユニフォームを着用した登録外の生徒(5名以内)を認める。
(3) ノッカーは、ユニフォームを着用する。
5. 応援 (1) 中学生にふさわしい応援をする。
(2) 応援は攻撃側のチームが優先に行う。
6. 守備側と攻撃側のタイムの回数制限
捕手または内野手が、1試合に投手の所へ行ける回数は、7イニングで3回以内とする。なお、タイブレイク方式となった場合は、2イニングに1回行くことができる。また、攻撃側についても同様とする。
7. 監督が投手の所へ行く回数の制限
監督が、1試合に投手の所へ行ける回数は、7イニングで3回以内とする。なお、タイブレイク方式となった場合は、2イニングに1回行くことができる。
監督が同一イニングに同一投手の所へ2回目に行くか、行ったとみなされた場合は、投手は自動的に交代しなければならない。なお、他の守備についてたときは、同一イニングには再び投手には戻れない。
8. 用具 (1) バットリング、トレーニングバットの使用を禁止する。(但し、マスコットバットは使用可)
(2) 手袋・リストガードは、原則として「白」または「黒」を主にした高校野球対応の手袋を使用する。
(3) ストッキングの形をしっかりと統一する。
(4) 全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が完全に消えた用具は使用できない。
(5) 捕手は全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が入った捕手用ヘルメット・マスク・スロータガード・プロテクター・レガースとファウルカップを使用すること。また、打者・走者・次打者・ベースコーチ・バットボーイは全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が入った両側にイヤーフラップ(内側にはスポンジ等)のついたヘルメットを使用すること。
9. 試合のスピード化 (1) 打者・次打者・ベースコーチの4名は攻撃前のミーティングには参加せず、所定の場所に移動すること。
(2) 投球を受けた捕手は、速やかに投手に返球すること。
(3) 捕手から返球を受けた投手は、速やかに投手板を踏んで投球姿勢をとること。
(4) 次打者席では、投手が投球姿勢に入ったら素振りをしてはならない。投手も必ず次打者席に入ること。
(5) サイン交換は迅速に行うこと。打者はバッターボックス内でサインを見る。
10. その他 (1) チームの選手(監督・コーチ含む)は同色、同形のユニフォームを着用する。尚、監督・コーチのシューズについても同色とする。コーチ(教職員)の服装は平服(白を基調としたポロシャツ・同一の野球帽)とする。但しノックをする者はユニフォーム着用のこと。また、記録員はユニフォームか制服とする。
(2) 選手交代は、監督が球審に告げること。
(3) 球場内における試合前の練習はユニフォームを着用すること。
(4) 芝生保護のため各球場において正規のシートノック以外はスパイク以外で行うこと。
(5) 試合中のアップ(キャッチボール)については2組(4名以内)とする。
(6) 大会運営上、天候によっては場所を移動しての試合もあり得る。
(7) 各チームのゴミは必ず責任を持って持ち帰る。最終試合の両チームは、ダッグアウト、スタンドを清掃する。